



インフルエンザが注意報レベルを超えました

2025年第45週(11月3日～11月9日)の発生動向調査において、熊本市内の定点医療機関からのインフルエンザ報告数は285件(1定点医療機関当たり11.88)で、国が定める注意報レベルの基準値「10」を超えました。

高齢者や基礎疾患のある方が感染すると、重症化するリスクが高まります。
マスク着用や、手洗い・うがい等の基本的な感染対策により、感染を予防しましょう。

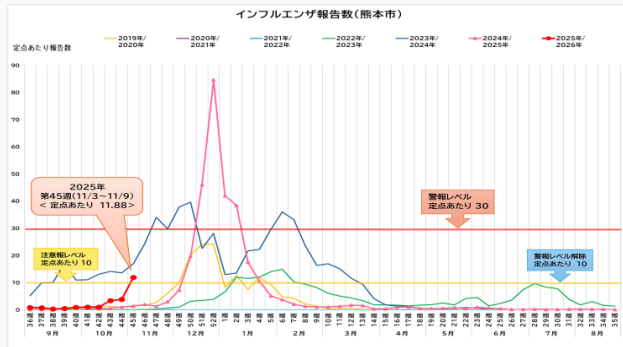


●主な症状●

38℃以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛、全身倦怠感等の症状が比較的急速に現れるのが特徴です。普通の風邪と同じように、のどの痛み、鼻汁、咳等の症状も見られます。

●予防対策●

- ① 流行前のワクチン接種
- ② 外出後の手洗い等
- ③ 適度な湿度(50～60%)の保持
- ④ 十分な休養とバランスのとれた栄養摂取
- ⑤ 人混み等の混雑した場所への外出を控える
- ⑥ 室内ではこまめに換気をする



定点 種別	疾患名	状況	44週(10/27～11/2)		45週(11/3～11/9)	
			報告数	定点当り	報告数	定点当り
急性呼吸器感染症 (ARI)	インフルエンザ	△	91	3.79	285	11.88
	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)		22	0.92	33	1.38
	急性呼吸器感染症(ARI)		1473	61.38	1596	66.50
小児科	RSウイルス感染症		28	1.87	13	0.87
	咽頭結膜熱(プール熱)	—	3	0.20	8	0.53
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	—	17	1.13	16	1.07
	感染性胃腸炎	—	44	2.93	37	2.47
	水痘(みずぼうそう)	—	1	0.07	3	0.20
	手足口病	—	3	0.20	3	0.20
	伝染性紅斑(りんご病)	○	42	2.80	32	2.13
	突発性発しん		5	0.33	7	0.47
	ヘルパンギーナ	—	0	0.00	0	0.00
	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	—	0	0.00	0	0.00
眼科	急性出血性結膜炎	—	0	0.00	0	0.00
	流行性角結膜炎(はやり目)	—	11	2.20	13	2.60
基幹	細菌性髄膜炎		0	0.00	0	0.00
	無菌性髄膜炎		1	0.20	0	0.00
	マイコプラズマ肺炎		14	2.80	14	2.80
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0	0.00	0	0.00
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)		0	0.00	0	0.00

※「状況」欄は、疾患ごとの警報・注意報レベルを表示しています。表中の斜線は、基準値が定められていないことを示します。

○:警報レベル △:注意報レベル —:警報・注意報レベルなし